

PUPA

2000
4
Vol. 4

生活情報誌 : 先進国に学ぶ介護制度 / リターナブル瓶



関西ダイアパーリース協同組合

福祉先進国 オーストラリアに 学ぶ介護制度

高齢社会を迎え介護保険導入を前にして、介護に関する問題に関心が高まってきています。今回は福祉先進国のオーストラリア（メルボルン・シドニー）の介護のあり方について研修した内容を報告させていただきます。

オーストラリアは日本の面積二〇倍以上、そして人口は七分の一です。自然保護や環境問題について厳しく、街や道路にはゴミひとつありません。

ゴミ処理は埋立て処理で焼却によるダイオキシンの問題も発生しません。

（紙おむつの埋立て処理については、環境問題もあり近い将来ダメでしょうと有識者の発言がありました）

しくなっているというものの、老人福祉の分野においては世界的に優れた保証が来ています。

無料バスや障害者専用バス（乗降時車体を低くする）や障害者専用タクシーがあり、駅には必ず階段とスロープがあります。

中福祉・中負担だが 在宅介護に重点

病院・ナーシングホーム
（日本の特別養護老人ホーム）
・ホステル（老人ホー

ム）には、家事援助が主なボランティア、
“ピンクレディー”
（平均年齢七十歳の）制度がありました。

自律を目的として術後や高齢者でも早期退院（入院平均日数六、七日日本では同三三、五日）を図り、帰宅後の医療介護としての訪問看護、リハビリ及び訪問介護や生活面での家事や配食サービス。そして隣近所の助け合い、地域間での送迎サービス等徹底しています。

入院平均日数でみてもちかに在宅での介護関係が充実しているかが分かります。

一九八五年に在宅介護と施設福祉に重点を置く法律が出来ました。その上に一九八七年には「入居者の権利憲章」が発令されています。二十一項目の権利と四項目の責任があり、それを実行また受ける義務、そしてそれを誰もが平等に受けられるようにいつも見えるところに掲げるようになっていきます。



障害者用タクシー

人権の自由と尊重 権利と責任と義務

内容は入居者が家庭にいるのと同じような環境（精神的にも）で生活することを基本としています。

またその上、精神がいかなる状態（痴呆症）であろうとも人権の自由と尊重のもとに、公平に質の高いケアを受ける権利、また行動には危険が伴うが入居者は自分で責任を取る権利があるとか。

危険であるという理由でその人の行動を制限されな

いとあり、例えば危険が伴おうとも、高齢者個人の最後のひとときの権利を守る。それがオーストラリアの高齢者ケアだと言われています。

この権利と責任と義務の一体感が、人格の尊重になる。そして入居者の心の安らぎを保ちながら残存能力をいかに持続させるかが重要で（これが介護です）。

いたる所に変化を つけ老化を防ぐ工夫

ナースングホーム（タルボットプレイス）は、鍵も



窓は大きく部屋から庭の木や花が見え、いつでも外で散歩ができます



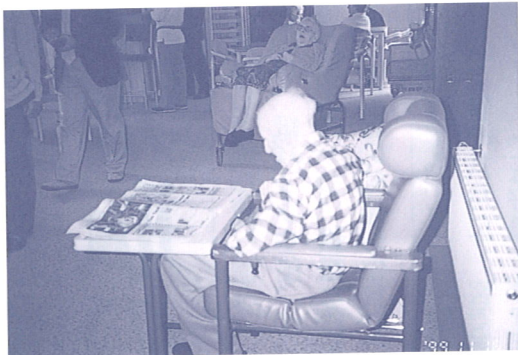
ピンクレディと呼ばれているボランティア活動

無く自宅と同じ環境をつくり、窓は大きく部屋から庭の木や花や外の景色が見え、いつでも庭に出られるし、散歩も出来るようになっております。

室内は木製品を多く使用し、廊下の天井は高低差を設け、また廊下も広くしたり狭くしたりと変化をつけ

て、少しでも脳に刺激を与え老化（または痴呆）を防ぐ工夫がなされています。

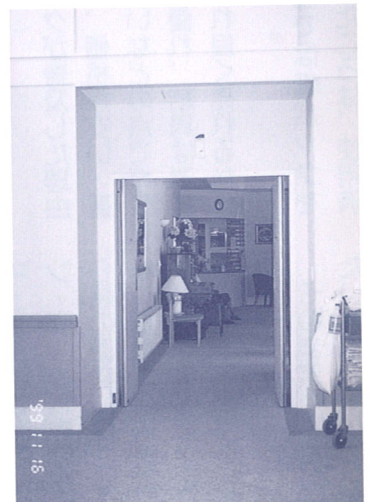
トイレ、洗面、シャワーも上下、左右に調節が出来るようになっていきます。また、歩行の出来ない人もエアーチェアーにて移動し、生活するようになっていました。



歩行の出来ない人もエアーチェアーで移動でき、けっして寝たきりにはさせていません

施設側も、少しでも楽しく心の安定した時間を過ごさせる責任（入居者の権利憲章を守る）があります。民間の監査人、行政にも施設にも属さない民間人の客観的な目

日本の場合、介護について間違った考えの人が多いのではないのでしょうか、何から何までかまってくれるのが良い介護だと錯覚していないでしょうか。当然残存能力を退化させるようなことになれば、寝たきり老人をつくることになりません。いつまでもその人の人格の尊厳を護ってあげてこそ、その人の人生では……。



廊下の天井の高さに変化をつけて脳に刺激を与えて老化を防ぐ

リターナブル瓶の再評価



ビール瓶や一升瓶のように回収、洗浄して繰り返し使う「リターナブル瓶」が、牛乳瓶で再評価されてきたという。紙パックや缶、ペットボトルなどのリサイクルに限界が見え出したのが原因の一つ。貴重な資源を使った容器が、おびただしいゴミへと変わる現状への反省の気運も生れているようだ。

今、改めて期待される「リターナブル瓶」

大阪西部生協では昨年六月、牛乳の容器を紙パックからリターナブル瓶へ切り替えました。配達は週に一回。牛乳は九〇〇ミリ・リットル入りで一九五円。配達を受けるとき瓶代一〇〇円が加算され、空き瓶を返すと払い戻されるデポジット制。回収率は平均九七%と紙パックを上回っています。

月に約一万三四〇〇リットルを提供する同生協がリターナブル瓶に切り替えたのは「環境への負担が最も小さい方法」を探った結果です。ガラス瓶には、重い、割れるといった欠点があり、切り替えに当初は不安の声

があつたといえます。しかし、切り替え後の八月に行ったアンケートでは好意的な反応が多かった。「小さな子供もいるし、割れるのではと心配していたがほとんど問題ありません」「紙パックのような変な臭いがせず、おいしい」「洗って、乾かして、切って、一定の量までためて、という紙パックのような手間がからない」などです。

同生協では醤油やソースなども数年前、リターナブル瓶に替えており「リターナブル瓶が社会全体に定着していくよう、活動していきたい」と話しています。もともと牛乳瓶はリターナブル・ボトルとしての長い歴史と伝統があります。

みのパックは回収してリサイクル業者に売却し、再生されたトレレットペーパーやティッシュを購入、販売してきました。

確かに牛乳パックに使用されるパルプは、強く良質なものですが、再生紙はバージンパルプからつくる紙より手間とコストがかかり、汚染もひどいということを知っておく必要があります。

大量に集めてリサイクル工場に運ぶ。ところが両側にポリエチレン・フィルムが張られていて、そのままでは再生できません。ラミネートされたポリエチレン・フィルムをはがしてから紙の原料に戻さなければなりません。省資源、省エネが目的なのにかえってエネルギーを使ってしまうのです。

そのまま捨てるのはもったいない、少しでも森林保

宅配牛乳はほとんどが固定客であり、牛乳瓶の回収率はほぼ一〇〇%。リユース（複数回再使用）の回数は、ビール瓶の平均一五回に対し牛乳瓶は五〇回。これらの良い面が、牛乳パックリサイクルの市民運動を行っているメンバーからも、牛乳瓶を再評価すべきとの声が出てきているのです。

再生紙の原料としては適していなかった紙パック

紙パックが普及した理由は、軽い、価格が安い、運搬しやすいなどの点でガラス瓶より優れ、結局は消費者に好まれ良く売れるからです。

同生協では紙パックを使っていたころは、使用済

護、資源の無駄遣いを防ぐというところで、回収運動が始まりましたが、実は「リサイクルし難い紙パック」に市民権を与え大量生産、大量消費型の社会を支え大量のゴミを創出してしまったのです。

大量な紙パック製品が回り、古紙の相場の下落と相俟って、手間から見れば紙パックの売却益はわずかととなり、ゴミとして処分しなくてはならなくなっているといえます。

限界が見え始めた 容器のリサイクル運動

瓶入り牛乳、大阪東部生協、千里山生協（いずれも大阪府内）、エルコープ（京都市）などが昨年六月以降相次いで採用。京都市内では市民団体と業者などが昨年二月、リターナブル瓶を採用するための検討チームを発足させています。また、神戸のコープこうべでは、会員のみですが牧場直送牛乳をリターナブル瓶で販売しています。

こうした動きの背景には

容器のリサイクル運動に、限界が見え始めたことがあげられます。

一九九七年に容器包装リサイクル法が施行され、ペットボトルやガラス瓶のリサイクルが法的に位置付けられました。ところが、このために、ペットボトルもまた“公認”された形となって、急増したのです。

当初から再資源化が望めないため、小型のペットボトルは製造・販売しないように厚生省が清涼飲料業界を行政指導してきました。

しかしながら、近年ミネラルウォーターを中心に小型の輸入ペット入り飲料が大量に回り始め、危機感を抱いた国内メーカーも一九九六年四月から販売を始め急速に普及し出したのです。

清涼飲料、醤油、酒類用のペットボトル使用量は、九五年は一四万二一〇トだったのが、その後、一貫して増え続け、九八年には二八万一九二七トとほぼ倍増しました。

このうちリサイクルされ

るのは僅か一七%だけ。ガラス瓶も七四%（いずれも九八年度）。残りはゴミになり、埋めるか捨てるかされています。同法はゴミの発生を抑えるのが狙いだったのに、結果は逆になったのです。

ペットボトルの最大の問題は、一度しか使えない使い捨ての容器として製造・販売されていることです。

缶では不可能であった飲み掛けでもふたをすることで、持ち運び・保存が簡単という利便性は見逃せませんが、リサイクルするのに二リ容器一本につき六〇円近くかかるのも問題です。

ワンウェイ飲料容器にはゴミ処理費や再資源化の費用を負担させるべきではないでしょうか。

同法は今年四月に本格施行となり、段ボールなど紙類もリサイクルの対象となります。これを前に、ペットボトルの教訓から「いくらかリサイクルしても、大量流通が続く限り、ゴミの減量にはつながらない」という認識が広まってきていま

す。

ゴミ問題解決に 不可欠なリユースの復権

瓶がリターナブルに移行する上でのネックは、今使われている容器の種類が多すぎることです。回収した後分別するのに、膨大な手間がかかります。そこで、福岡市や東京の生協では瓶の規格を決め、メーカーに使用を要請。飲料や調味料などへのリターナブル瓶導入に成功しています。

新しい統一規格瓶の開発によって、リターナブル・ボトルが再評価されることを期待したいです。

使い捨て型のワンウェイ飲料容器に関して、再資源化という政策で対応してきたツケが顕在化してきました。ワンウェイ容器のリサイクル費用を分析すると、回収・輸送費用が七割以上占め、それは自治体の負担になっていきます。三割以下の再商品化費用を事業者が負担しているにすぎないことがワンウェイ容器の生産を急増させた基本的原因で

おむつ新事情 環境や健康に配慮？

安さも魅力で布派復権



英国で布おむつの「復権」が急速に進んでいる。この一年間で売り上げは倍になり、布おむつ派は赤ちゃんのいる世帯の二五％になったという。「紙おむつより環境や健康に優しい」という従来の理由に加え、紙おむつより安くすむことや、汚れた布おむつを回収して洗濯し、家庭に配達するサービスの登場が人気回復につながった。ゴミ処理コストの増加をあげた自治体が、布おむつの奨励に熱心になり出したことも、この動きに拍車をかけている。

(ロンドン＝沢村 五)

英国 配達業者が洗濯代行

顧客1年で6倍

イングランド南部ブライトン郊外のタニヤさん(仮名)の自宅に木曜日朝、白いワゴン車で真っ白な二千五百枚の布おむつが届いた。配

達員の男性は、この一週間であつた汚れたおむつの入った緑の袋を回収していった。タニヤさんは布おむつの配達サービスを、産科で開かれた妊婦教室で知った。「布おむつの方が子供の肌にも良さそうだし、買いたくなく手間を考えれば、紙おむつよりも便利」という。布おむつを洗濯・配達するコットンポム社は二年前にジョアン・フリーマン(仮名)が創業した。仕事を続けながら三人の子供を育てる体から生まれたアイデアがあつた。顧客数はこの一年間で六倍になり、イングランド南部全域にサービスを広げたという。人気の理由は、布おむつにつきものだった洗濯から解放される手軽さと、紙おむつよりも月平均八割(約千五百円)安いこと。一枚洗ひ上がった布おむつを届ける配達員(左)、ライオンランド南部ブライトン郊外で、沢村写す

ゴミ削減目指し自治体が後押し

洗ひ上がった布おむつを届ける配達員(左)、ライオンランド南部ブライトン郊外で、沢村写す

「環境や安全意識の高まりもあるが、布おむつの方が安いという経済的理由と、みな同じ形の紙おむつに比べ、多様なデザインに布おむつも出回り、多様化する消費者ニーズに合った」とパーマンさんは分析する。ゴミ処分場の確保に苦しむ英国政府は昨年、ゴミ削減を促すため、民間企業と協力してリサイクルに取り組み自治体には、ゴミがあたり十割を徴収している。紙おむつは家庭ゴミの四割を占めることから、新生児がいる家庭に布おむつをプレゼントしたり、妊婦教室で利用を勧めたり、自治体が増え、布おむつへの転換に拍車をかける形になっている。

「2歳で外せ」説流行

赤ちゃんのおむつは何歳で外すのがいいの？ そんな問題が今、米国でさかんに議論されている。長く信じられてきたのは「三歳でも四歳でも問題ない。焦って無理に外させるのは禁物」という説。だが、「二歳をめどに一気に外させるのがいい」とする考え方が急速に支持を広げてきた。対象年齢を縮めたくない紙おむつ会社の思惑もあって、結論はすぐには出せない。

(ニューヨーク＝山中 季広)

米国

「おむつ外し」である。

これに異議を唱えられた

「外し遅れて便秘」

米小児医学界の重鎮である

が、育児理論の権威とされる

子供自身がおむつを嫌がる

ハーバード大学名誉教授

のジョン・ロスモント氏

るようになるまで、つけき

ブレゼルトン博士が主張し

昨年暮れに発表した論文

せておいて構わない。これ

た。日本の育児書でも同様

で、おむつを外す時期を逸

が、米国で四十年近く信奉

に、「時期が来れば自然に

されたきた「子供本位主義

紙おむつ社援護？」

ロスモント氏と意見を異

にするブレゼルトン博士に

とって不運なのは、ハーバ

ード大退職後の再就職先

世界の暮らし

が、大手おむつメーカーの研究所だつたこと。おむつが取れる時期が早まれば早まるほど、おむつ市場は小さくなる。紙おむつのテレビ広告にも登場する博士は、「おむつ外しを遅らせることでメーカーの販売戦略を助けているのではないかと」癒着を疑われ、その弁明に迫られている。

米国内の調査では、二歳の半の時点でおむつをあてている幼児は、一九六一年には十九人中一人の割合だつたが、九七年には十人中八人にまで増えた。育児用品を扱う店では、五歳児用の大型おむつも売られている。出産後働く女性が育児に割く時間は減る。一方、育児雑誌には、「最近のおむつ論争のせいで、トイレの習慣を身につけるトレーニングを始めるべき時期が一層わからなくなつた」といふ若い親たちの嘆きが集められている。

コットンポムのあるミッドサセックス郡は、赤ちゃん一人が布おむつを使うと自治体は約三十ポンドを節約できると試算。相当額を洗濯サービスを利用者に払い戻すことを決めた。これに追随する自治体もある。

厚生省認可環第608号
全国ダイパーリース協同組合連合会加盟

関西ダイパーリース協同組合

〒651-0086
神戸市中央区磯上通4-1-32 ロイヤル磯上502号
TEL (078) 242-7991 FAX (078) 242-7992

企業一覧

アロー商事株式会社
株式会社 キッタ
株式会社 京宝ベビー
コーベベビー株式会社
山陽ダイヤパーサーヴィス株式会社
サンベビー株式会社
渋谷油脂株式会社
神医協興産株式会社
株式会社東京洗染機械製作所
株式会社 ニック
株式会社長谷虎リネンサービス
株式会社広瀬総合保険事務所
姫路ベビーサービス
株式会社ベビーツーワン
山基物産株式会社
(50音順)



このパンフレットは再生紙を使用しています。